

かわさきTMO通信

＜毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2011・11・12月号 No.37

- フェスティバルなかわさき報告
- 高松市丸亀町商店街との交流
- 2011年度第2回総会開催

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：副会頭 深堀和子
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2011年12月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-540-3904
 FAX：044-540-3900
 E-mail：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお気軽に
 情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇フェスティバルなかわさき報告

■東日本応援をテーマに「東日本復興
 すでに恒例となった、秋のイベント
 で川崎をPRする『フェスティバルな
 かわさき』は、今年、新たに「市民と
 働く者のフェスタ」「サンピアンかわ
 さき感謝まつり」「Buyかわさきフ
 エスティバル」を加え、12イベント
 団体が勢ぞろいしました。

当初は、東日本大震災もあり、イベ
 ント開催を断念する団体も出るので
 はとの懸念がありました。が、「こんな
 時こそ開催して東北に元気を届けよ
 う」「改めて寄付金を集めて支援の機
 会にしよう」など、共通の開催趣旨を
 確認してのスタートとなりました。

■協賛企業に支えられPR活動推進
 多くの企業が震災の影響や冷え込
 む消費者心理に左右されたと思われ
 ますが、今年も17の地元企業より
 イベント協賛を頂きました。

共同PRポスターの作成、京急全線、
 JR南武線・鶴見線への車内広告、へ
 のイベント&タッチラリー情報掲載
 を実施したほか、新たにHP上で協賛
 企業とのリンクも張りました。

イベント開催の10・11月は、1
 0月中旬に悪天候に見舞われるなど

があったものの、今年も約百万人近い
 来場者を迎えました。

■多様な連携が

また、川崎市の呼びかけにより、ほ
 ぼ全てのイベント会場に「東日本復興
 応援物産ブース」を設置し、東北の物
 産品販売が行われました。併せてイベ
 ント共通の募金箱設置も行い、11月
 下旬で把握しているだけでも、8百万
 円を超える寄付金が集まりました。

また、銀柳街では専修大学のインタ
 ーシップや川崎市立商業高等学校
 と連携し、ラッピングバスを企画・デ
 ザインし、一ヶ月間走行させるなど、
 新たな展開もありました。



◆市長表敬後の記者発表でイベント開催をPR

全7回の実行委員会を開催し、11
 月末には反省会を開催し、今年度を振
 り返りました。

今年アーティストが去ると来場
 者が大きく引く傾向が強く、来年度は
 これまで以上に、複数イベントを周遊
 する仕組みや、街に人が楽しみながら
 滞留するための工夫（イベント案内表
 示、写真撮影スポット設置等）が必要
 であることが指摘されるなど、秋のイ
 ベントを通じてかわさきをPRして
 いく意味を改めて確認しました。

（コーディネーター・片岡由美）

◆電車や商店街、施設に掲載した共同PRポスター

◇高松市丸亀町商店街との交流

高松市の中心市街地である丸亀商店街は、全国から注目を集めている商店街の一つである。全国の中心市街地商店街でシャッター通りが増える中、市民のニーズにこたえて充実した商店街を形成しつつある。その推進の中心人物である古川康造商店街振興組合理事長を迎えて、かわさきTMO会員との懇談会が十一月に二十一日にもたれた。

丸亀商店街は、七つのブロック（街区）の連鎖型再開発による新しい商業地区を形成する計画に基づいて進められている。この再開発にはいくつかの特徴がある。その第一は、再開発法第一百十条の「全員合意型」で、行われたこと。第二に、定期借地権を取り入れることで土地の所有権と利用権とを分離したこと。第三に高齢化、人口減少に対応した都市の再生を図ること、第四に、街づく会社によるタウンマネージメントによる一括管理運営を行っていることなどがあげられる。

古川理事長の説明を受けて、TMO会員から熱心な質問や意見が交わされた。特に、全員合意の再開発がどうして可能であったのか。土地所有者が

定期借地権による土地所有権の制限に同意した理由。テナントミックスの方法、再開発施設の運営方法、行政とのかかわり方などであった。

これらの具体的な質問に対して、丸亀商店街では、全員合意というのは普通考えるほどには難しくなかった。それは地権者である全員が非常な危機感を供給していたことであつた。また、新しい商店街ができるにあつたって、丸亀町のコミュニティを壊しては成り立たないと考えたと古川理事長は答えている。また、定期借地権という方法を理解するには相当に時間がかかっている。しかし、古くから持っている土地が六十年後には戻ってくるということが、合意を得た大きな理由であり、その間、利用権は手放すが賃借料が収入となる。そのことで、最も難しく、重要であるテナントミックスが可能となつている。行政とのかかわりでは、積極的に補助金を活用したことで、そして、それら補助金が、再開後に支払われる税金という形で、国、県、市に戻されていることを明らかにしている。古川氏の講演は、TMOで整理しまとめる予定である。

(タウンマネージャー 笹原克)

◇第2回総会開催

かわさきタウンマネージメント機関(TMO)の平成23年度第2回総会が、10月・11月の秋のイベントが終了した11月28日(月)に川崎市産業振興会館1階第6会議室で開催されました。

猪熊会長の開会の挨拶に、続いて今回より新たに総会に参加されることになりました。日本政策金融公庫大泉川崎支店長並びに川崎商工会議所斉藤中小企業振興部長のお二方より、自己紹介並びに挨拶を頂きその後、議事に入りました。

第2回総会の主な議題は、本年度の「TMO事業の遂行状況の中間報告」であり、事務局より事業報告として総会・役員会・プロジェクト部会・2つの実行委員会の開催の状況が報告されました。

その後、プロジェクト部会部会長より、今年度取り組んでいる課題について詳細な説明がありました。

商店街協定部会 武藤部会長
商店街協定部会では、昨年度より策定を検討していた商店街協定素案を、TMO傘下の各商店街に送付し検討を依頼しておりました。今後は、TM

Oと各商店街が協定を結びお客様に楽しいお買物の場を提供したいと考えています。

提言部会 戸村部会長

提言部会では、「川崎駅南口改札口の設置要望」「大型バス駐車場設置要望」について、観光協会・商工会議所と連携した活動を行っています。

イベント連携部会 大西部会長
フェスティバルなかわさきに関するPR方法の報告。イベントサミットの開催に向けた説明がありました。

回遊性向上部会 小林部会長
川崎駅周辺地区から富士見公園周辺地区への回遊性を図るため、「オープンカフェプロジェクト」の検討並びに川崎駅周辺における電気自動車の活用についての検討も始まっています。

地域共同販促部会
共同販促部会では、川崎駅から川崎大師に向かう「駅からハイキング」との連携を検討しましたが、来街者等の問題もあり現在は、川崎駅周辺の老舗マップの作成を考えています。

各部会とも、中心市街地の活性化に向けた活動を展開しております。

今後も、適宜本通信を通じてお知らせいたします。(事務局 神谷)